

冊子名	地理歴史	
科目名	地理	
31	ページ	第2問 表2の欄外
<u>問題訂正</u>		
(誤)	海草	
(正)	海藻	

# 入学試験問題



## 地理歴史

(配点 120 点)

平成 25 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 39 ページあります(本文は日本史 4 問 4～13 ページ, 世界史 3 問 14～23 ページ, 地理 3 問 24～39 ページ)。落丁, 乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら, 手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 日本史, 世界史, 地理のうちから, あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 4 解答には, 必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 5 解答は, 1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 6 解答用紙の指定欄に, 受験番号(表面 2 箇所, 裏面 1 箇所), 科類, 氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 7 解答は, 必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 8 解答用紙表面上方の指定された( )内に, その用紙で解答する科目名を記入しなさい。
- 9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち, その用紙で解答する科目の分を 1 箇所だけ正しく切り取りなさい。
- 10 解答用紙の解答欄に, 関係のない文字, 記号, 符号などを記入してはいけません。また, 解答用紙の欄外の余白には, 何も書いてはいけません。
- 11 この問題冊子の余白は, 草稿用に使用してもよいが, どのページも切り離してはいけません。
- 12 解答用紙は, 持ち帰ってはいけません。
- 13 試験終了後, 問題冊子は持ち帰りなさい。

# 地 理

## 第 1 問

気候と地表環境に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

### 設問A

図1—1は、風化作用の強度分布を示したものである。この図をみて、以下の問いに答えなさい。

- (1) 図1—1で、風化作用の弱い地域が、高緯度と低緯度の2つの緯度帯に存在する。それぞれの地域で風化作用が弱い理由を、あわせて2行以内で答えなさい。
  
- (2) 風化作用の激しい地域では、土壤中の養分が溶けて流出してしまうため、一般に農業生産性が低い。しかし、風化作用の激しい地域は、土壤条件を除外すれば、植物の生育に好ましい条件を備えている。この好ましい条件とは何か、2行以内で述べなさい。
  
- (3) 図1—1において風化作用が極めて活発な地域のなかでも、(a)ガンジス・ブラマプトラ川下流域や(b)ジャワ島のように、高い農業生産性が長期間にわたって維持されている地域が存在する。このような地域では、何らかの要因によって土壤が繰り返し更新されているために、土壤の肥沃度が維持されている。(a)と(b)それぞれの地域において土壤の更新をもたらす自然的要因とは何か、あわせて3行以内で述べなさい。

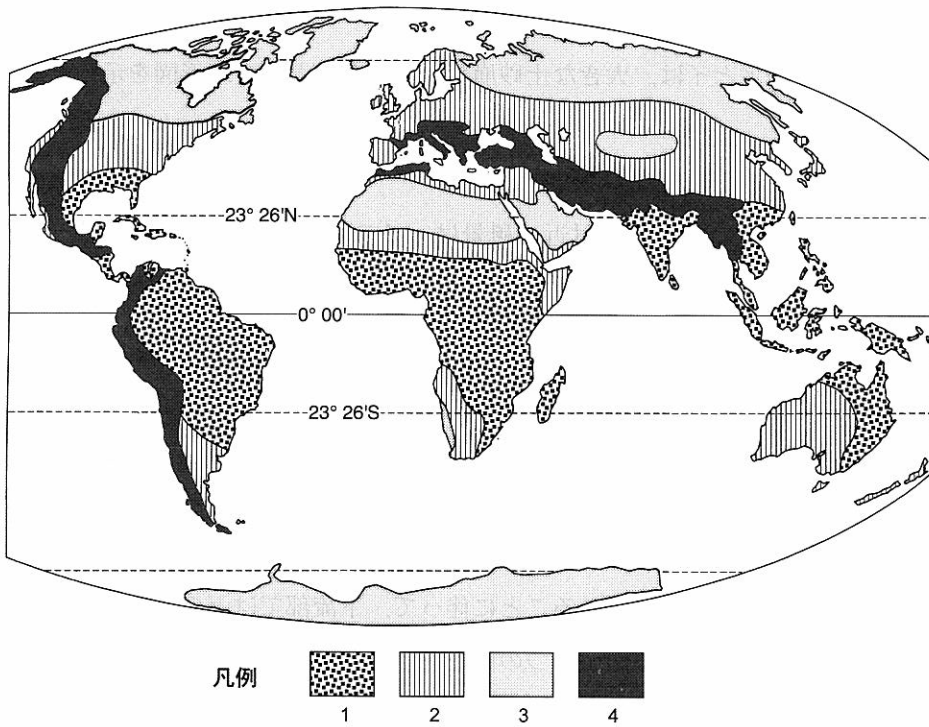


図 1—1

凡例：1. 風化作用が極めて活発な地域, 2. 風化作用が中程度の地域,  
 3. 風化作用が微弱な地域(氷河に覆われた地域を含む), 4. 侵食が激しいため地表に風化物質がほとんど残っていない山岳地域(風化作用の強度は様々である)。

Summerfield, M. A., 1991, Global Geomorphology による。

設問B

図1—2のアとイは、大きな土砂崩れが生じた前と後の地形図を示したものである。

- (1) 図1—2ア中の地点X付近の風景は、イの時期にどのように変わったと考えられるか、1行で答えなさい。
- (2) 土砂崩れで生じた多量の土砂は、どのように流下していったと考えられるか、図1—2イ中のY、Z付近の地表面の変化にふれながら、2行以内で述べなさい。
- (3) 多量の土砂が一度に崩れることに伴って、下流部ではどのような災害を起こす可能性が考えられるか、2つの例をあげて、2行以内で述べなさい。

ア

イ

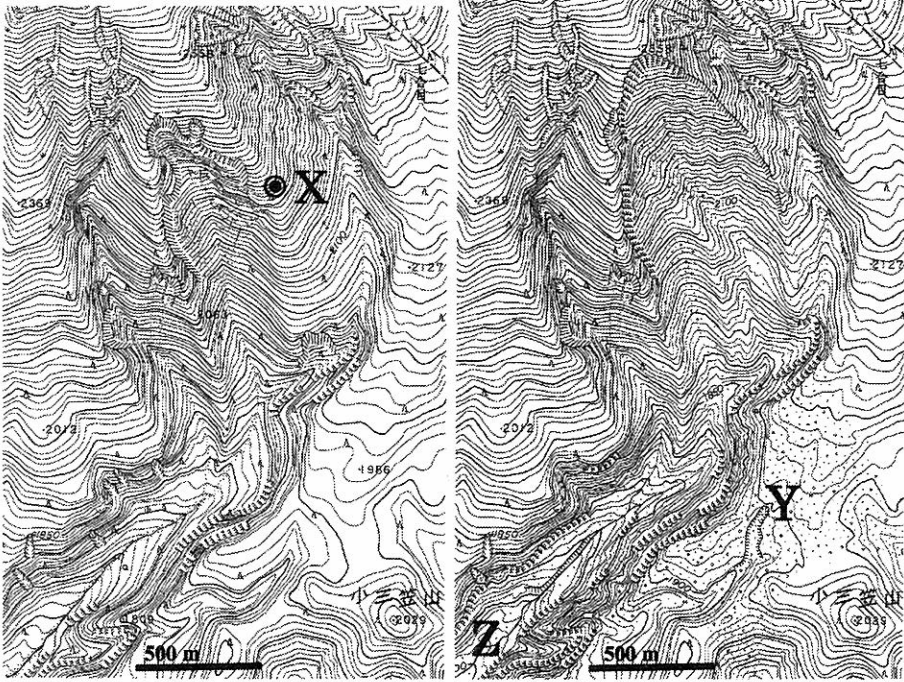


図 1—2

1 : 25,000 地形図(縮小)

## 第 2 問

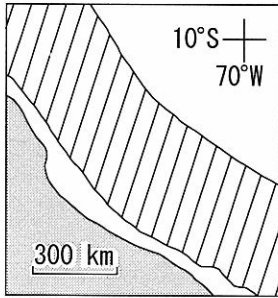
世界の農業と水産業に関する以下の設問A～Cに答えなさい。解答は、解答用紙の(口)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

### 設問A

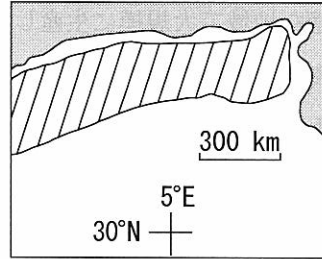
世界各地の大陸の沿岸部をみると、海岸線から比較的近い場所に長大な山脈が走り、海岸から内陸に向かって数百キロ移動する間に、自然環境や土地利用が大きく変化する地域がある。このような地域に関する以下の問いに答えなさい。

- (1) 図2の地域Aと地域Bにはいずれも砂漠気候がみられる。砂漠気候がみられるのは、それぞれ山脈をはさんで海岸側と内陸側のどちら側か。地域A、地域Bの順に、それぞれの地域の砂漠気候の成立理由とあわせて、全部で3行以内で述べなさい。
- (2) 地域Aの概ね2000 m以上の山岳地帯で栽培・飼育されている代表的な農作物と家畜を、それぞれ1つずつ挙げなさい。
- (3) 地域Cでは5～10月、11～4月のいずれの時期に降雨が集中するか。その理由とともに、1行で説明しなさい。
- (4) 地域Cの海岸地帯で生産されるこの地域の主食となっている農作物(ア)と、山麓の丘陵地帯で生産される代表的な商品作物(イ)を、アー○、イー○のように、それぞれ1つずつ挙げなさい。

地域 A



地域 B



地域 C

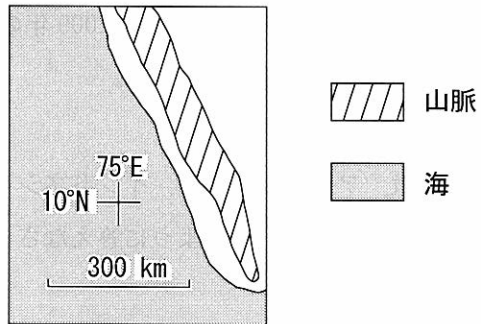


図 2



## 設問B

農産物を、生産された地域のみで消費することに比べて、適地適作の観点から、最適な地域で大規模に生産して国際的に取引する方が、より効率的に、かつ安価に食料を確保することができると言われている。その反面、このことによってどのような問題が生じると考えられるか、想定される問題点を2つ挙げて、3行以内で説明しなさい。

## 設問C

次ページの表2は、世界の主要な水産国について、1970年から2009年の漁獲量の推移、2009年の漁獲量の世界順位、2009年の養殖業生産量を示している。なお、漁獲量は養殖業生産量を含まない。

- (1) (ア)～(ウ)は、アメリカ合衆国、インドネシア、ペルーのいずれかである。  
(ア)～(ウ)の国名を、ア○のように答えなさい。
- (2) (イ)(ウ)両国の養殖業生産量(b)と漁獲量(a)の比率(b)/aを比較すると、大きな差が見られる。(イ)国でこの比率が高くなる理由として考えられることを、(イ)国の自然的・社会的条件から、2行以内で述べなさい。
- (3) 近年、世界各国で水産資源の持続的利用についての関心が高まり、水産資源を管理するための国際的な取り組みが盛んになっている。このような国際的な取り組みが必要とされる理由を、具体的な水産資源の例を挙げて、下記の語句をすべて用い、3行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

排他的経済水域      総量規制      消費量      生息場所

表 2

国	漁獲量(万トン)						養殖業 生産量(b) (万トン・ 2009年)	(b)／(a)
	1970年	1980年	1990年	2000年	2009年 (a)	世界順位 (2009年)		
中国	249	315	671	1,482	1,520	1	4,528	2.98
(ア)	1,248	271	687	1,066	692	2	4	0.01
(イ)	115	165	264	412	510	3	471	0.92
(ウ)	279	370	562	476	423	4	48	0.11
日本	872	1,004	968	509	419	6	124	0.30
世界計	6,383	6,824	8,592	9,467	9,012	—	7,304	0.81

漁獲量と養殖業生産量のいずれも、魚介類と海草類を含む。  
水産白書 2010 による(原資料は FAO 資料および農林水産省資料)。

### 第 3 問

経済・産業の変化と人口に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は、解答用紙の(ハ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

#### 設問A

図3—1は、2000年代前半における各国の都市および農村の年齢階層別の人口構成比率を図示したものである。

- (1) 図中のA～Cは、インドネシア、スペイン、中国のいずれかである。A～Cの国名を、それぞれA—○のように答えなさい。
- (2) アメリカ合衆国の都市では、30～44歳の年齢階層と、その子の世代である0～14歳の年齢階層の間にほとんど差がみられない。このような現象が現れる社会的な理由を、2行以内で述べなさい。
- (3) 韓国の都市では、日本の都市と比べて高齢化が進んでいない。その理由を下記の語句をすべて用い、2行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

人口移動      高度経済成長

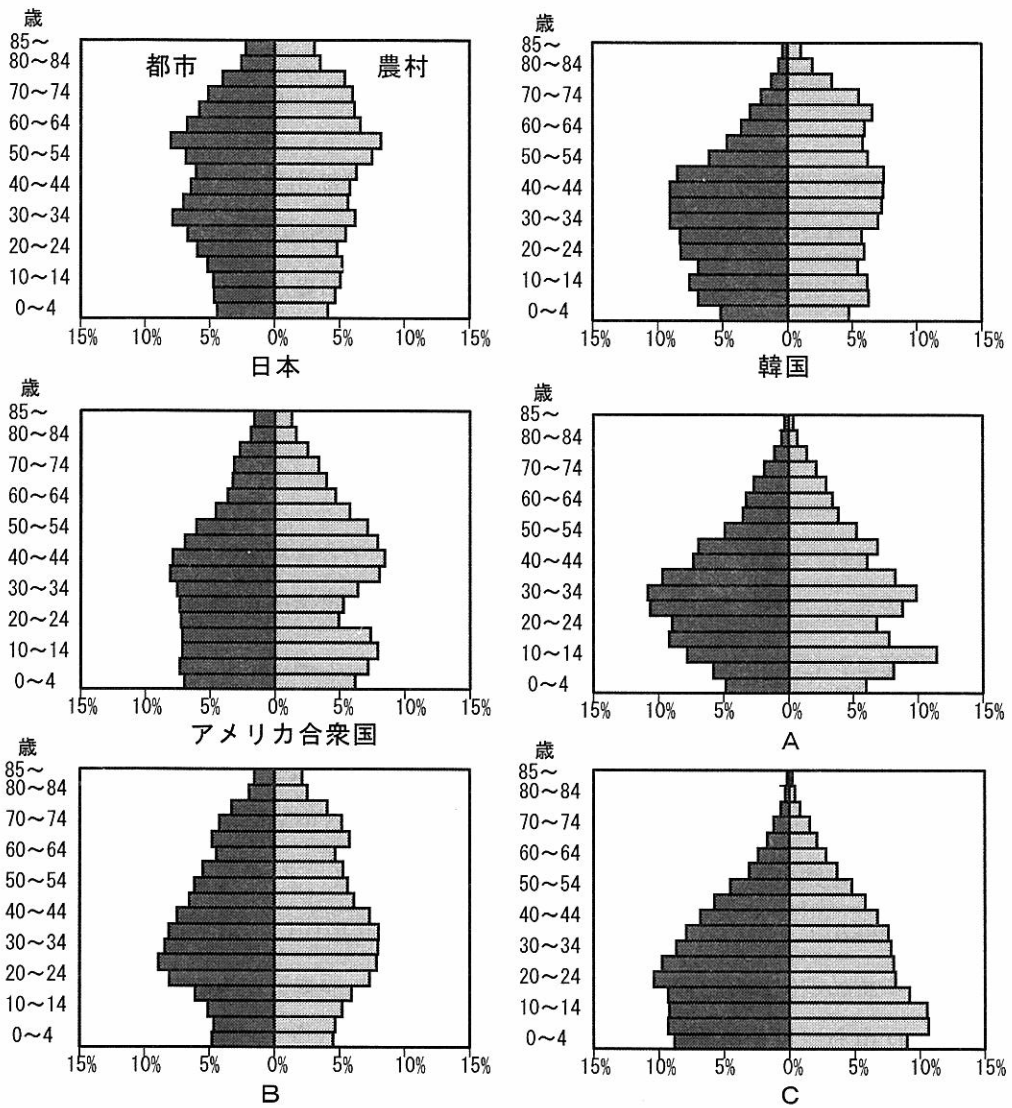


図 3—1

国際連合 Demographic Yearbook による。

## 設問B

日本の工業都市に関する次々ページの小問(1)～(4)に答えなさい。

次ページの図3-2は、日本の代表的な工業都市について、1960年から2010年までの人口の変化を示したものである。図中の4つの市では、人口減少が長く続いているが、人口減少が始まった時期が異なっている。

A市は、第2次世界大戦前に石炭を原料とした(ア)工業都市として栄えたが、第2次大戦後、国内の石炭に代わって海外からの石炭や原油が工業原料として使われるようになると、早くも1960年代に人口減少を経験することになった。

B市も、戦前から国内資源に依存して(イ)工業とともに成長してきた都市である。(イ)工業に関しては、戦後の高度経済成長期に太平洋ベルトに臨海コンビナートが形成され、新たに建設された工場に生産の中心が移るなかで、大市場から遠いB市の生産量は低下していくことになった。その結果、1970年に人口がピークに達して以降、B市の人口は減少傾向を示している。

C市は、近くの銅山を発祥とする企業が立地する企業城下町として知られている。非鉄金属工業に加えて、戦後に新設された(ア)工業プラントでの生産が盛んであったが、オイルショック後の1980年代に、京葉地区の工場に大量生産品の生産が移転するなかで、人口も減少してきている。

D市も、当初は銅山で栄えていたが、その後(ウ)工業が発達し、高度経済成長期には大幅な人口増加がみられた。オイルショック後もハイテク工業化を進め、人口は維持されていたが、1985年～90年の時期に人口減少が始まっている。<sup>(a)</sup>

こうした人口減少の続く4市とは対照的に、この50年間を通じて、一貫して人口が増加しているE市には、日本を代表する(エ)工業の本社と主力工場が立地している。(エ)工業は、E市の工業出荷額の約9割を占めるなど、E市を含めたこの地域の工業の成長を牽引してきた。しかし最近、国や地<sup>(b)</sup>元自治体では、この地域の工業の業種の幅を広げる政策を進めてきている。

人口(千人)

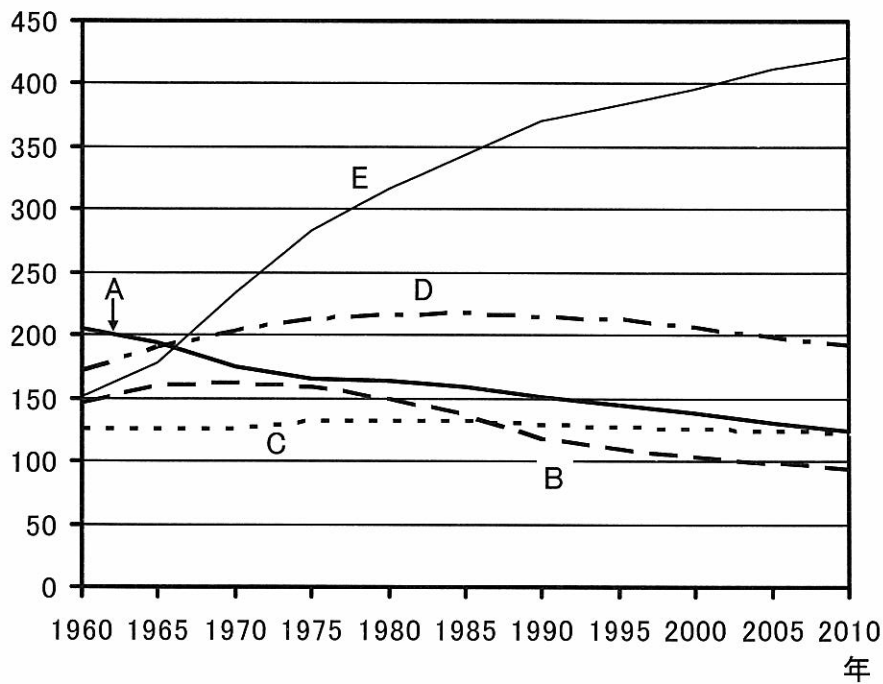


図3—2

各市とも、現在の市域に組み替えた人口を示している。

国勢調査による。

- (1) 文中のA～Eの都市は、次の都市群のどの都市に該当するか、A～Oのように答えなさい。

大牟田          豊 田          新居浜          日 立          室 蘭

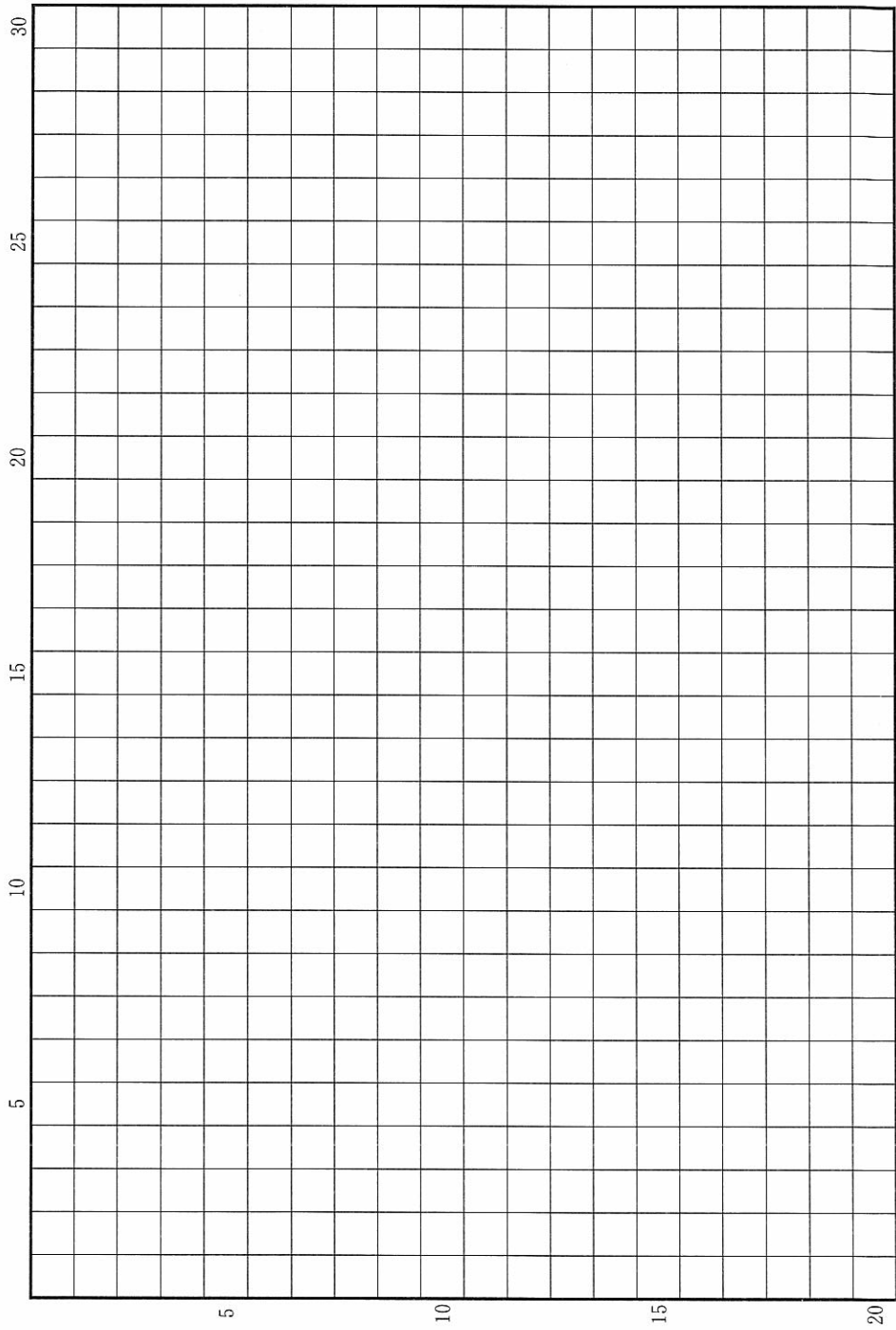
- (2) 文中のア～エに該当する工業は、次の業種群のいずれかである。ア～エの業種名を、A～Oのように答えなさい。

食料品          織 維          紙・パルプ      化 学  
製 鉄          電気機械      自動車          精密機械

- (3) 下線部(a)について、この時期に人口減少が始まった理由を1行で述べなさい。

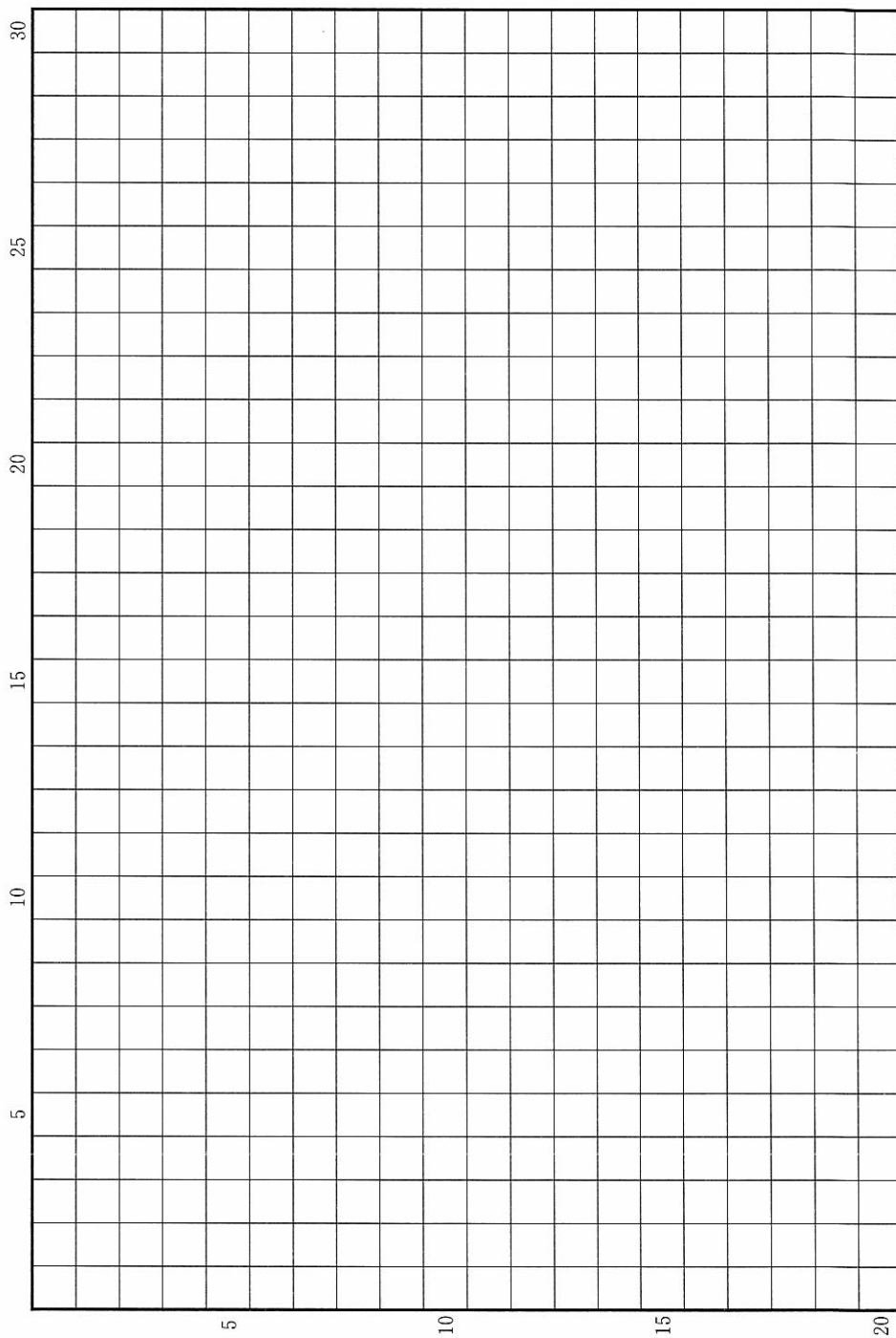
- (4) 下線部(b)について、国や自治体がそのような政策を進めている理由として考えられることを、2行以内で述べなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)





草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)

